

## 令和8年度 東京都立竹台高等学校 学校経営計画

東京都立竹台高等学校長

福島 泰直

## 1 目指す学校像

## (1) 目指す学校

「共に学び 共に進む」の校訓のもと、東京都教育委員会の目標に基づき、知・徳・体のバランスの取れた教育を行い、生徒の個性や能力を磨き、生徒が自らの進路や在り方生き方について自己実現を図れるように支援し、変化の激しいこれからの社会を生き抜くことのできる人間を育成する。

## (2) 教育目標

- ① 人間性豊かで、互いの人格を尊重し、社会の発展に貢献できる人材を育成する。
- ② 人権尊重の理念を基盤に、生徒が高い「規範意識」をもち、「感謝・礼儀・思いやり」を励行する。
- ③ 確かな学力を向上させ、自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間を育てる。
- ④ 特別活動、部活動の振興を通して、生徒の心身を鍛える。
- ⑤ 生命尊重と安全を常に心がける人間を育てる。

## (3) スクールミッション

家庭と連携した生活指導による規律ある学校生活と家庭における自主学習習慣の確立を図ることで学力を向上し、地域活動への参加などの特色ある教育活動を通じて、心身を鍛え、人権尊重の理念を基盤に高い規範意識をもって社会の発展に貢献し、異なる文化や価値観の先に新たな価値を創造する人材を育成する。

## (4) スクール・ポリシー

## ① グラデュエーション・ポリシー

- ア) 課題解決 ～学びを基に、身に付けた知識・技能を活用できる～
- イ) 表現 ～自らの考えを、適切な方法によって伝え合う～
- ウ) 社会貢献 ～人権意識を身に付け、自他の違いを尊重して協働できる～
- エ) 行動 ～「自助」「共助」の精神を持つ、社会的課題に関心を持つ～
- オ) 心身の健康 ～生涯にわたり体力向上のための運動を行おうとする～

## ② カリキュラム・ポリシー

- ア) 知・徳・体のバランスの取れた教育
- イ) 全教科による学習意欲の喚起、学習習慣の確立、読書活動の推進、言語活動の充実
- ウ) 特別活動を通じ自主性創造性を育成
- エ) 系統的なキャリア教育による自己実現の支援
- オ) 良識ある行動と社会的責任の自覚

## ③ アドミッション・ポリシー

- ア) 本校の特色や目標を理解して、入学を強く希望する生徒
- イ) 学習において、どの教科も真面目に取り組み、授業に集中し、努力を惜しまず、勉学に励む生徒
- ウ) 特別活動において、生徒会活動、ボランティア活動、地域貢献等に積極的に取り組む生徒
- エ) 基本的な生活習慣を身に付け、ルールを守り、目標に向かって一生懸命に努力する生徒
- オ) 他者に感謝する心、他者を思いやる心を持った生徒

## 2 中期的目標と方策

### (1) 学習指導の充実

学習指導要領のもと、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を教員が的確に捉え、指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学びを振り返り、次の学びを改善していくという、指導と評価の一体化による質の高い教育の実現に取り組む。そのためには、引き続き観点別学習状況の評価の質を高め、充実させることが、極めて重要であり、教科会、校内研修会等において観点別学習状況の評価について基準の統一化、教員の指導力向上を図りながら、生徒が主体的に学習に取り組む校内環境づくりを行う。教科内及び教科間の横断的連携により、学びを深め、新たな視点で物事をとらえる経験を通じて、生徒の興味・関心を引き出す。主体的・対話的な深い学びの授業実践を組織的に行うことにより、主体的に学習に取り組む態度を育成する。全教員が、ICT等デジタル機器を活用した授業実践を行い、いつでもオンライン授業が行える体制を構築するとともに、校内の業務についてもデジタル化を推進し、情報社会に対応できる、知識、態度、活用能力を高める。持続可能な社会づくりの視点で、社会における様々な問題について、各教科・総合的な探究の時間・特別活動・部活動等のあらゆる教育活動を通じて、学校全体で課題解決に取り組む。学力向上推進校として、授業時数の確保、授業規律の向上、わかる授業づくりの推進、朝学習の充実、放課後や土日の補習・講習および学習支援員による個別学習指導教室「竹台塾」の充実、自宅学習時間の定着などにより、入学年次からの学習習慣の定着と進学・就職に向けて必要とされる基礎学力を身に付けることを目指す。在京外国人生徒への日本語指導については、外部の専門家である日本語指導担当教員や高大連携の協定を結んでいる明海大学の教員、学生等からの人的支援を受け、指導の充実を図るとともに、7時間目、8時間目に実施している学校設定科目「日本語Ⅰ」に加えて、「日本語Ⅱ」を開講し、単位の取得に取り組ませる。また、在京外国人生徒が多く在籍する学年や部活動等の集団においては、日本語、外国語でコミュニケーションを取り合いながら、日本語能力の向上に取り組むとともに、互いを尊重し合う豊かな人間関係を築き、異なる文化や習慣、考え方を尊重し、多様な人々との話し合いの中で合意形成を図り、協力することができるグローバル人材の育成を図る。

### (2) 進路指導の充実

入学から卒業までに取り組まなければならないことを、キャリア教育の全体計画として作成し、その充実、実現を図るとともに、生徒が自己の在り方・生き方を考え、家族や友人、教員とのコミュニケーションを図りながら、自らの進路を主体的に決めることができるようにする。進路指導部と各学年が連携しながら、系統的かつ組織的な進路指導を行い、個々の生徒の進路意識や取り組み状況を確認しながら、適切な指導、支援を行い、進路目標の達成を目指す。保護者と密に連絡を取り合いながら、生徒に安易な妥協をさせないことに注力し、第一志望への進路指導を継続して行い、キャリア教育・学習活動・生活指導の更なる向上と連携を図る。平成29年1月に明海大学との間で締結した高大連携協定により、それ以降8年間に亘り、大学の教育内容に直接触れることで、生徒の視野が広がり、進路に対する意識及び学習意欲を高めることができた。さらに昨年度からは、帝京科学大学とも高大連携協定を締結したことで、今後も大学教育・高等学校教育相互の活性化を図り、信頼関係にもとづいた高大連携を推進する。

### (3) 生活指導の充実

規律ある自由の意味を生徒に正しく理解させ、ルールを守る、マナーを守る行動を、人から言われるのではなく、自分から自主的な行動がとれるよう、規則正しい生活習慣の確実な定着、規範意識の醸成に取り組む。さらに、教員間の認識の違いが、生徒を混乱させることがないよう、遅刻指導、服装指導、頭髪指導等において、全教職員が共通理解を図り、連携・協力して指導を行う。また、様々な角度から生徒を捉え、生徒理解を深め、全教員がセンサーの感度を高め、常に働かせることで、生徒の小さな変化をも感じ取ることができる体制を構築し、生徒が健康で安全な学校生活を送れるよう指導の充実を図る。いじめの未然防止を強力に推進するとともに、い

じめを早期発見、早期対応する体制を構築する。

#### (4) 募集・広報活動の充実

本校の特色ある教育活動について、ホームページや学校案内、竹台通信等を通じて積極的に発信し、情報提供を行い、安心、安全で、校訓の精神である「共に学び 共に進む」を实践する学校であり、個々の生徒の夢、目標の実現に向けて、全教職員が全力で支援する学校であることを強くアピールする。また、学校説明会、学校見学会、授業公開、出前授業、中学校訪問、塾訪問等を全教員が協力し、組織的、計画的、戦略的な募集活動を積極的に行うことにより、多くの中学生が本校を強く志望し、入学したいと思ってもらえるよう、広く効果的な募集活動、広報活動を実践する。ホームページの閲覧回数が多くないことから、他校のホームページの調査・分析を行い、全教職員が関わりながら、学校の魅力を効果的にアピールできるホームページづくりを行う。

#### (5) 健康・安全の充実

生徒の健康の保持・増進及び体力の向上を図るための環境整備を推進する。引き続き新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症対策を徹底し、校内における感染拡大防止を図る。友人関係や家族関係など、様々な問題を抱え、保健室を訪れる生徒が増え続けており、担任、養護教諭、スクールカウンセラーが連携しながら、生徒一人ひとりに寄り添い、学校が安心・安全な居場所となるようにする。さらに、全教員間での生徒情報を共有するため、全校でのケース会議、研修を行い、生徒に寄り添う体制づくりやSOSの出し方に関する教育を強力に推進する。生徒が校内で心身を休め、悩みを相談することが可能な居場所づくりを進め、不登校・中途退学の未然防止や早期支援に取り組む。災害から「自分を守る、家族を守る、友人を守る」ために、荒川区、消防署、水道局、町会と連携した防災訓練を実施し、災害に対する体験的、実践的な防災教育による生徒の防災意識の向上、防災体制の構築を推進する。

#### (6) 特別活動・部活動

ホームルーム活動や生徒会活動及び学校行事等を通じて、個別最適な学びと協働的な学びという観点から、学習活動の充実を図り、人間力を育成し、卒業後に社会の一員として、よりよい社会の発展に貢献しようとする強い自覚と行動力を育成する。また、オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを継続し、部活動の一層の活性化を図り、学校生活の充実と生徒が自らの可能性を見つけ、その伸長を図る強い意志を持ち続けられるようにする。また、「TOKYO ACTIVE PLAN for students」が目指す、自ら体力を高めていく習慣を身に付け、生涯にわたって心身の健康を保持増進することができる資質・能力の育成に取り組む。

#### (7) 地域連携の充実

学校開放や公開講座、地域の行事への参加、学校周辺の清掃活動、交通安全活動等を通じて、地域との連携を深め、学校の教育活動を地域に理解してもらうよう様々な広報活動を行い、開かれた学校づくりを推進する。

#### (8) 学校経営・組織体制の充実

管理運営規定に基づく組織的な学校運営を行い、企画調整会議を中心とした組織的学校経営を推進し、校務分掌内及び分掌間の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営と諸課題の解決を図っていく。さらに、学校運営連絡協議会において、保護者や地域の代表の方々から学校運営に関する意見をいただき、本校の継続的な改善に取り組むとともに、ライフ・ワーク・バランスの充実を図り、業務を合理的・効率的に実施するための学校改革を強力に推進し、教職員間のコミュニケーションを密にすることで服務事故の根絶に取り組む。

### 3 今年度の目標と方策

#### (1) 教育活動の目標と方策

東京都教育施策大綱が提示した方針に基づき、本校の教育目標と目指す学校の具現化に向け、全教職員による協働体制（＝チーム竹台）を推進し、組織的・効率的な校務運営を行う。これまでの教育活動の成果と課題を検証し、成果の更なる伸長と課題の改善・改革に向けて、全教職員が共通認識を持ち、組織として役割を分担しながら、教育活動の充実に取り組む。東京都教育ビジョン（第5次）の実現に向けて、「自ら未来を切り拓く力の育成」「誰一人取り残さないきめ細かな教育の充実」「子供たちの学びを支える教職員・学校の力の強化」を強力に推進する。そのために基礎学力、基本的な生活習慣の定着を図り、個々の生徒が自らの個性や能力に気付き、主体的に学ぶ力を伸ばし、他者との関わりを通じて、自ら課題を発見し、解決方法を考え、判断し、行動する探究的な活動を身に付けるとともに、かけがえのない生命を尊重し、他者の個性や考えを認め、理解することで多様な人々とともに生きる社会の実現を目指す。

#### 【学習指導の充実】

- ①定期的に教科会を開催し、教科内での意思統一を図り、教材、授業内容、定期考査の共通化を推進し、教科全体として授業改善と教科全体の授業力向上に取り組む。
- ②学習指導要領に基づき、観点別学習評価の統一基準を設定し、それをもとに協議し、評価を決定する。
- ③ICT機器の積極的活用等、デジタル技術を活用した教育を推進し、オンライン授業のための学校環境の整備と円滑な実施のための体制づくりを推進し、すぐにオンライン授業を実施できるようにするとともに、インターネット等を通じて得た多くの情報を適切に理解し、活用するための情報リテラシーの能力を高める。
- ④主体的・対話的な深い学びによる授業を通して、生徒の興味・関心を引き出し、自ら意欲的に学習に取り組むようにする。
- ⑤習熟度別授業、理系・文系の選択科目など、生徒の理解度や今後の夢や目標に応じた、きめ細かい指導を行い、基礎的・基本的な学習内容の定着、学力の向上に取り組む。
- ⑥全学年において、朝学習の時間を設け、教科と学年が連携して実施し、学力向上、基本的な生活習慣の定着、学習意欲の向上を図る。
- ⑦在京外国人生徒への日本語力の向上のため、7時間目、8時間目の学校設定科目「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」での授業、1年生の国語、地歴、理科の科目で取出し授業、放課後や長期休業中の講習により日本語指導の充実を図る。また、J-CATや日本語能力試験を活用して、日本語の学習到達度を把握し、それに基づいて指導内容、指導方法を改善し、効果的な日本語指導を行う。
- ⑧生徒の言語に関する関心を高めさせ、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させるために、学校図書館の積極的活用やビブリオバトル校内予選等の行事を充実させる。
- ⑨早朝、放課後に自主学習のための学習室を設置し、勉強場所としての学校の活用を推進するとともに、進学対策講習、夏期・冬期講習、休日学習部活動（まな部）、竹台塾への参加者を拡大させ、学力向上のための学習指導を行う。
- ⑩生徒の学習意欲と進路決定率を高めるために、学年、教科が連携して、英語検定、漢字検定、数学検定、情報処理検定などの資格取得に向けた指導を実施する。
- ⑪近年の急激な社会変化に対応すべく、主権者教育、消費者教育等を推進する。
- ⑫学力向上推進校として、外部人材を積極的に活用しながら、学習状況の分析、評価による修正を行い、基礎学力の定着・向上を図る。
- ⑬高大連携協定校からの支援を受けて、総合的な探究の時間や授業を通じて、課題を解決するための創造的・論理的思考力を育成するとともに、全生徒が、実用英語技能検定を受験し、英語力の向上に取り組み、グローバル人材の育成を図る。

### 【進路指導の充実】

- ①キャリア教育の全体計画に基づき、将来設計に基づいた進路指導を行い、自己の個性や学習の成果を生かす進路を自らの意思と責任で選択決定していく能力や態度を育成する。
- ②的確な進路情報の提供、生徒の学力分析、面談の実施、講演会や説明会等の進路行事の充実、進路部と学年担任との連携などを通して、学校全体が一体となった組織的な進路指導を進める。
- ③生徒が自己の適正を理解した上で主体的に進路を考え、将来の進路を選択、決定するとともに社会に適応できる力を育成するため、自校作成の「進路の手引き」や、模試の結果を、全国の同年代の高校生のデータとパソコン上で比較しながら自己分析を行い、キャリア教育の一層の充実を図る。
- ④生徒に望ましい勤労観、職業観を育成するため、「人間と社会」等において、外部の専門家やNPO法人等の関係諸機関と連携した体験活動やボランティア活動を行い、探究活動を通じて、自分たちで解答を見つけ出し、行動する力の育成を図りながら、3年間を見通した進路啓発を積極的に推進していく。
- ⑤放課後等の自主学習時間の確保や長期休業期間中の講習など、希望する進路実現に向けた環境や指導を、組織的・計画的に行い、生徒の学習意欲を啓発し、進路実現に向けた学力を向上させる。
- ⑥生徒、保護者と教員間の連絡方法として、Classi や Teams を最大限に活用し、相互のコミュニケーションを密に取り合うことで、進路希望の実現を図る。

### 【生活指導の充実】

- ①規律ある自由を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において、規範意識を高め、自分で判断し、決定し、実行する、自己指導能力を高める指導を行う。
- ②校門指導、ホームルーム指導、授業開始時の指導などを通じて、遅刻防止指導や頭髪・服装・身だしなみ（ピアス・化粧）等の指導を、全教職員が統一した基準で組織的に取り組む。また、不審者侵入等による盗難被害等を防ぐために、貴重品管理の指導を徹底するとともに、校内巡回を実施する。
- ③授業規律の一環として、チャイムと同時の授業開始、授業開始と終了時の挨拶の徹底、授業に不要なものは机の上に置かせない指導等を行う。
- ④体罰根絶、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むなど、人権尊重の教育を推進する。
- ⑤セーフティー教室等を通じて、SNSの正しい利用、薬物乱用防止、問題行動防止、犯罪被害防止などの指導を充実させる。
- ⑥自転車の安全指導、通学マナー指導、ヘルメット着用を、家庭・地域・関係機関との連携を図り指導する。

### 【募集・広報活動の充実】

- ①学校説明会、学校見学会、授業公開などの充実を図り、中学校訪問や外部での学校説明会等にも参加しながら本校の特色をわかりやすく伝え、入学者選抜において本校への入学を強く希望し、応募する者の拡大を図る。
- ②在校生のアンケートを分析し、結果に基づいて、募集活動を工夫し、本校の特色や教育の成果を広く都民や中学生等にPRしていく。
- ③中学校訪問、出前授業、学校説明等の募集活動を全教職員で取り組む。
- ④本校の特色ある教育活動や部活動等について、ホームページの更新を迅速かつ定期的に行うとともに、アクセス数の多い他校のホームページを参考にして、中学生と保護者が見たいと思うホームページづくりを行い、外部に積極的に情報発信を行う。

### 【健康・安全の充実】

- ①学校医と連携し学校保健委員会を充実させ、新型インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症への対応を徹底し、全教職員が情報を共有し、生徒への適切な指導を行い、感染症拡大を防止する。

- ②生徒の体力向上を目指し「TOKYO ACTIVE PLAN for students」を参考に、質の高い授業実践、運動習慣の確立・定着、運動部活動の推進を図る。
- ③スクールカウンセラーによる、新入生全員を対象とした個別面談を実施し、生徒が抱える悩みの発見、問題行動の未然防止や生活状況の的確な把握により、ホームルーム担任、養護教諭等が連携したカウンセリング体制を充実させ、不登校、中途退学の未然防止を図る。特に特別な支援を必要とする生徒に対しては、必要なサポート体制を迅速に構築し、生徒・保護者を支援する。
- ④様々な課題を抱え、教育相談を必要とする生徒に対するケース会議を全教員で実施するとともに、教員の理解推進を図るため校内研修を実施し、指導力を向上させる。
- ⑤命の大切さやSOSの出し方に関する教育等を行うことにより、自殺予防等に関する取り組みを徹底する。
- ⑥食物アレルギー等の対応が必要な生徒情報をケース会議により、全教員で共有するとともに、アレルギー疾患対応研修を実施し、緊急時に迅速に対応できる体制を構築する。
- ⑦防災教育充実に取り組み、災害に対する「自助」「共助」の考えを育成し、体験的・実践的な防災教育を、防災委員会を中心に実施する。荒川区、水道局等の公共機関並びに地域の自治会等と連携した防災体制を構築し、緊急時に迅速に行動できる体制づくりを行う。
- ⑧ゴミの分別、美化清掃活動を徹底し、環境美化とリサイクル及び省エネ活動など持続可能な社会づくりを推進する。

#### 【特別活動・部活動の充実】

- ①生徒がルールやマナーを守り、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができるよう、全校集会等における整列指導や話を聞く態度の指導を行う。
- ②生徒の学校やホームルームへの帰属意識を高め、自主性を育成し、集団における自己の在り方を学び、確立するために、ホームルーム活動、生徒会活動、各種委員会活動を活発に行い、「体育祭」「若竹祭（文化祭）」等の学校行事を充実させる。
- ③生徒に文化、スポーツに親しませ、豊かな人間関係を育むとともに、生徒の自主性や創造力を伸長するために、部活動への加入を促進するとともに、部活動指導員を積極的に活用し、地域と連携した部活動の一層の活性化を図る。
- ④生徒会活動・部活動等において、生徒が自らの可能性を見つけ出し、その伸長を図ることができる強い意思を持ち続けるよう継続的な指導を行う。
- ⑤部活動を通じて、在京外国人生徒とその他の生徒が、様々な活動を通じて、交流を深め、互いに日本語、外国語の言語能力を向上させる取り組みを行う。

#### 【地域連携の充実】

- ①学校開放や公開講座を通じて、学校施設の有効利用を図るとともに、生徒会活動や部活動を通じての地域行事への参加、生徒による定期的な地域清掃活動、荒川警察署と連携した交通安全活動等を行い、地域の人たちから信頼される学校を目指す。
- ②防災訓練実施にあたり、関係諸機関、地域との連携状況を細部まで確認し、課題があればすぐに協議し、修正を加えておくことで、非常時において、より安全安心な防災体制の構築を図る。

#### 【学校経営・組織体制の充実】

- ①法規・法令、規定・規約、通達・通知等に基づいた学校経営を推進し、学校組織の機能を高め、生徒、保護者に充実した教育を提供できるようにする。
- ②各分掌、学年、教科の一層の連携強化を図り、PDCAサイクルを確立し、各事業の持続的な発展を目指す。

- ③ T A I M S 端末や教育用 I C T 機器等のデジタル機器を有効に活用し、校務の効率化を一層推進するとともに、ライフ・ワーク・バランスの実現を目指し、教職員の年休取得促進、在校時間縮減等、学校における働き方改革を推進する。
- ④ グローバル社会に対応した校内研修を充実し、国際理解を深め、教職員の人権意識等を高める。
- ⑤ 学校運営の成果と課題を把握するため、学校評価等、生徒、保護者、地域の意見や感想を集計・分析し、学校得られたデータに基づき、学校運営の改善に努める。
- ⑥ 生徒、保護者、都民の信頼を損なうことのないよう教職員全員に対して服務事故防止研修を悉皆として実施し、サービス事故ゼロを徹底する。
- ⑦ 経営企画室の学校経営参画を促進する。
- ⑧ 経営企画室との連絡・調整・連携を強化し、施設・設備の管理や予算編成指針に基づいた予算執行など、効率的・合理的な学校経営を行う。
- ⑨ 学校運営連絡協議会の円滑な運営を行う。

## (2) 重点目標と方策

### ① 【学習指導】

授業時数を確保し、基礎学力の確実な定着に取り組む。学習指導要領に基づいて、各教員が授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理解度に応じたわかりやすい授業を実施する。部活動と同じように行なう「まな部」と名付けた講習や夏期・冬期講習を計画的に実施するとともに、学力向上推進校として指定されたことにより外部の指導者を配置して実施する「竹台塾」と名付けた放課後や週休日に行う個別学習指導、さらに早朝や放課後の自主学習室の活用や保護者と連携した家庭学習の時間の確保など、希望進路の実現に向けて、様々な学力の向上のための方策を実施する。持続可能な社会づくりを推進する上で生じる様々な課題について、高大連携協定締結校である大学の支援を受けながら、「総合的な探究の時間」や「人間と社会」の時間を中心に体系的な指導計画を作成し、教科等横断的な視点での生徒の育成に取り組む。相互授業見学の実施により、教員の授業力を高め、I C T 機器を活用した主体的・対話的な深い学びによる授業づくりを目指す。グローバル社会に対応した国際理解教育推進を図り、全生徒の実用英語技能検定の取得や T G G への参加（1 学年）を推進する。在京外国人生徒の日本語指導の充実に取り組み、7 時間目、8 時間目に、学校設定科目「日本語 I」「日本語 II」の授業を設置し、経験豊富な外部の日本語指導担当教員を配置するとともに、在京外国人生徒の日本語能力や各教科の習熟状況を外部の検査や模試を活用して定期的に調査・分析し、指導内容の改善・充実に努める。

### ② 【進路指導】

3 年間を見通したキャリア教育を策定、推進し、組織的・計画的に進路指導を行い、希望する進路実現に向けた指導の充実に努める。進路充実校を目指して進路部・学年が連携を密にし、学校全体で共通理解を図りながら取り組む。「総合的な探究の時間」「人間と社会」を通じて、探究活動に取り組む、生きる力を身に付け、希望進路実現を図るための基礎的、汎用的能力を高める。ハローワーク、大学、専門学校等から最新の情報を常に積極的に取り入れ、進路実現のための支援を組織的に行う。同窓会や卒業生、外部の専門家や N P O 団体等関係諸機関と連携し、キャリア教育の充実に努める。Classi や Teams を活用することで、生徒、保護者と連携した進路指導を行う。高大連携協定校と連携し、大学教育・高等学校教育相互の活性化を図るとともに、信頼関係に基づいた高大連携を推進する。

### ③ 【生活指導】

生活規律、授業規律の向上を目指し、教職員が共通の認識を持ち、共通の基準で指導にあたる。基本的生活習慣の定着、遅刻指導、身だしなみ指導において、生活指導部・担任・教科担任等全教員が連携し、常に生徒情報

を共有しながら組織的な指導を行う。いじめ・体罰防止に向け、定期的に生徒からアンケート調査を実施し、未然防止・早期発見に努める。問題行動防止、犯罪被害防止、自殺予防、SOSの出し方等の指導を家庭と連携しながら、安全安心な学校づくりを行う。

#### ④【募集・広報活動】

中学生及び保護者が進路選択の参考となるよう、特色ある教育活動や授業の様子、部活動、私立学校にも匹敵する学校施設等の情報をホームページ等、様々な方法を活用して情報発信を行う。ホームページの閲覧回数が多くなるよう、他校のホームページを分析し、多くの中学生、保護者が期待するホームページづくりを推進する。学校説明会、中学校訪問、在校生による中学校母校訪問、塾訪問、外部での説明会等に参加し、本校への入学を強く希望する中学生の拡大に努める。新入生アンケートを実施し、新入生の動向を調査・分析し、得られたデータをもとに効率的、効果的な募集活動を行い、本校の魅力が最大限に中学生と保護者に伝わるように取り組む。

#### ⑤【健康・安全】

生徒の生命や健康を守り、安全・安心を最優先とする教育活動を実践する。スクールカウンセラーを活用した学校全体の教育相談体制の機能を高め、生徒一人一人の状況把握に努め、きめ細かい指導を組織的に行う。配慮が必要な生徒の情報を全教員で共有するため、教育相談委員会、ケース会議や教員研修を定期的実施するとともに、外部人材を活用した教育相談体制の強化、学校での生徒の居場所づくりを推進する。

#### ⑥【特別活動・部活動】

学校行事や委員会活動等において生徒が主体的に活動し、達成感や自己肯定感を得ることができるよう指導する。部活動への加入率を高め、学校生活の充実と、学校への帰属意識を一層高める。体罰根絶に向け、外部指導員等すべての関係者への指導者研修を徹底する。

#### ⑦【地域連携】

生徒会、部活動等の単位で地域行事に積極的に参加し、地域貢献に取り組む主体的な姿勢を育成する。東京都水道局・荒川区防災課・荒川消防署や地域の自治会と連携した防災訓練等により、災害発生時に生徒、教職員の生命を守るために必要な行動を身に付けるための防災教育の充実を図る。教育活動に支障がない範囲で学校施設の有効利用を図り、地域に信頼される学校を目指す。

#### ⑧【学校経営・組織体制の充実】

更なる向上を目指す意識をもち、業務ごとに常に検証を行い、改善、工夫を行いながら、学校運営を進めていく。学校課題の発見、検討、問題解決の組織的な取り組みを素早く、強力に推進するため、主幹会議を定期的実施する。ライフ・ワーク・バランスの実現を目指し、学校における働き方改革を推進するため、月1日以上を定時退庁日として設定するとともに、マイ定時退庁日設定の促進、定時外在校時間の縮減、計画的な年休の取得を推進する。

(3) 数値目標 ( ) 内は昨年度実績

《学習面》

・自習室の開室 常時開室 (学校行事・考査等期間以外常時開室)

・まな部の実施 各学年7回以上 ( 1学年1回 2学年1回 3学年15回 )

- ・長期休業中講習 開校講座 20 延べ150時間以上 300名以上  
( 教科 23講座 123時間 277名、日本語教室集中講座 18時間 41名参加 )
- ・生徒による授業評価における肯定的評価 85%以上 ( 90% )
- ・図書館貸出冊数 1500冊以上 ( 1366冊 )
- ・資格取得準2級以上 30名以上  
( 38名 英検 23名 漢検 5名 数検 2名 情報処理技能検定 8名 )

#### 《進路指導面》

- ・4年制大学進学率 50% ( 45% )
- ・日東駒専以上現役合格 20名 ( 15名 )
- ・就職内定率 100% (100%)
- ・進路未決定者 5%未満 ( 2% )

#### 《生活指導面》

- ・年間遅刻30日以上  
1年生 5%以下 ( 2% )  
2学年 5%以下 ( 18% )  
3学年 5%以下 ( 28% )
- ・部活動加入率1学年 85% ( 81% )
- ・学校評価アンケート 地域の否定的評価 10%未満 ( 10.9% )
- ・体罰 0件 ( 0件 )

#### 《募集・広報活動面》

- ・ホームページ年間更新回数 350回以上 ( 322回 )
- ・ホームページアクセス回数(月平均) 8000回以上 ( 6522回 )
- ・学校説明会 5回 ( 5回 : 3312名 )
- ・個別相談会(管理職対応) 2回、160名以上 ( 2回 : 156名 )
- ・中学校訪問 180校 ( 180校 )
- ・塾訪問 60校 ( 58校 )

- ・中進対第1志望調査 1.50 ( 1.38 )
- ・入学者選抜応募倍率(学力検査) 1.50 ( 1.39 )
- ・文化祭来校者数 1850名  
( 1850名:中学生650名、保護者1000名、卒業生100名、近隣100名:人数制限実施 )
- ・「竹台通信」発行 12回 ( 12回 )
- ・相互授業見学各学期1回以上 100% ( 100% )

《地域連携面》

- ・施設開放 10団体以上 10日 ( 0団体 0日:使用方法検討中のため )

《学校運営・組織体制面》

- ・主幹会議 25回以上 ( 30回 企画調整会議後に実施 )
- ・電子起案の推進 99%以上 ( 99% )
- ・センター契約 50% ( 50% )
- ・定時外在校時間 80時間越0名 ( 4名 )
- ・月1日以上の定時退庁 100% ( 100% )
- ・男性教職員育児休業取得率 100%以上 ( 100% )